

短期予報解説資料 2026年8月3日03時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5880mのリッジが華南から中国東北区付近まで張り出しており衛星水蒸気画像では日本付近は高気圧性循環が明瞭。また、華中と日本の南にはそれぞれ上層寒冷渦があつて循環が明瞭。
- ② 北～東日本では、オホーツク海から移動してきた千島近海に中心を持つ高気圧に覆われている。
- ③ 非常に強い台風第13号は、3日03時現在、南鳥島近海を西北西へ進んでいる。

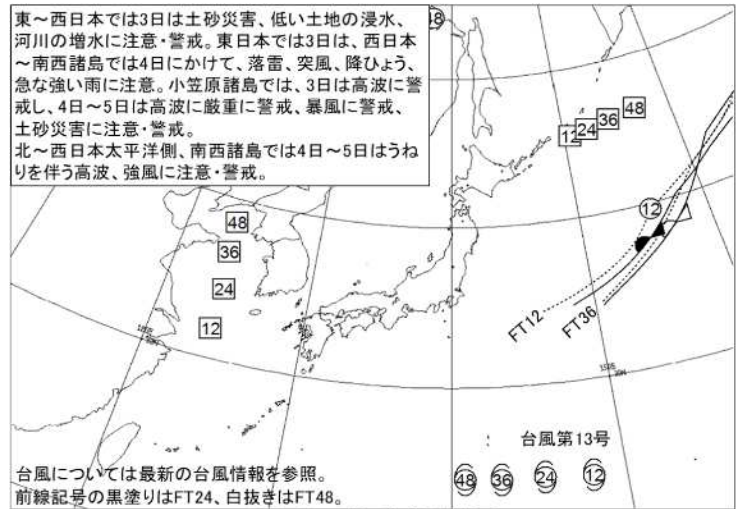
2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①のリッジは5日にかけて広く日本付近を覆うことから、上層高気圧に伴う下降流域が拡大し、4日以降500hPa 約6000mの気温が本州付近では0℃以上に暖化し東～西日本の大気の状態は次第に安定化する見込みだが、3日は上空寒気や強い日射の影響による気温上昇により大気の状態が不安定、局地的に大雨となる所がある。東～西日本では3日は土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、東日本では3日、西日本では4日にかけて落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。南西諸島では1項①の日本の南を西進する上層寒冷渦の影響により4日にかけて大気の状態が不安定となる見込み。上層寒冷渦は4日夜以降不明瞭となるため、南西諸島では4日にかけて落雷や突風、急な強い雨に注意。
- ② 1項②の高気圧が張り出すため、北～東日本の太平洋側では北東気流の影響により暑さが和らぐ所があるが、2項①の高気圧に覆われる西日本を中心に晴れて気温が上昇。5日にかけて猛暑日となる所が多く、特に九州北部地方では3日は酷暑日を予想している所がある。熱中症等の健康管理に注意。
- ③ 1項③の台風第13号は非常に強い勢力を維持したまま4日から5日にかけて最も小笠原諸島に接近するため、猛烈なしけとなる見込み。小笠原諸島では3日はうねりを伴った高波に警戒し、4日から5日は厳重に警戒。また暴風にも警戒。台風本体の雨雲も小笠原諸島に広がることから4日から5日にかけて土砂災害に注意・警戒。
- ④ 北日本太平洋側～西日本太平洋側、南西諸島では3日は台風周辺を波源とするうねりが到達し波が高まってくる。また、1項②の高気圧が張り出してくるため、台風との間で気圧の傾きが大きくなることから強風による風浪も加わる。北日本太平洋側～西日本太平洋側では4日から5日はうねりを伴った高波に注意・警戒し、強風に注意。南西諸島では4日はうねりを伴った高波に注意し、5日は強風や高波に注意・警戒。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考とするが、GSMの台風予想は中心気圧の過大傾向が続いていることから波高は割引く必要があることに留意。

4. 防災関連事項〔量的予報等〕 ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 波浪(明日まで)：小笠原諸島 11、伊豆諸島 6、関東 5、東北・東海・近畿・四国・九州南部・奄美・沖縄 4、九州北部 3

5. 全般気象解説情報発表の有無 全般気象解説情報(台風第13号)を5時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図